

北海道富良野市とドコモが「持続可能な森づくりに関する基本合意書」を締結 ～ドコモの森による J クレジットの創出、スマート林業の実践および環境教育による地域貢献活動を実施～

北海道富良野市（以下、富良野市）と株式会社 NTT ドコモ（以下、ドコモ）は、ゼロカーボンの実現と林業のデジタル化、および環境教育を通じた地域社会への貢献を目的とした「持続可能な森づくりに関する基本合意書」（以下、本合意書）を 2024 年 7 月 25 日（木）に締結いたしました。

本合意書に基づき、ドコモの森による J クレジットの創出やスマート林業の実践、環境教育による地域貢献活動を行ってまいります。富良野市とドコモは、「2050 年ゼロカーボンシティの実現^{*1}」「ドコモグループ 2040 年ネットゼロ^{*2}」の実現に向けて、官民共創を行い、森林保全活動を通じて「林業」「教育」の面から新たな価値を創造してまいります。

富良野市は、現在 836.02 ヘクタール（8,360,200 m²）の森林を市有林として管理しています。ドコモは全国各所に「ドコモの森」を設置しており、毎年、ドコモグループ社員やその家族と森林保全活動のほか、自治体及び林業事業者などと連携した環境教育などの生物多様性の保全・回復活動を実施しております。

本合意書に基づき、2024 年 7 月 25 日（木）から 2032 年 3 月 31 日（水）までの約 8 年間にわたり、富良野市の市有林をドコモ富良野の森として活用し J クレジット創出に取り組みます。またドコモが開発しているスマート林業機械による省人化・省力化の検証、富良野市内の児童に対する森のフィールド環境教育活動を実施するなど、脱炭素社会の実現や、担い手の減少および高齢化が課題となっている林業の再生、環境教育を通じた健全な森林を未来へ継承するため取り組みを進めてまいります。



【本合意書の概要】

1. 本合意書の名称

「持続可能な森づくりに関する基本合意書」

2. 本合意書の締結日

2024年7月25日（木）

3. 連携・協力事項

- (1) 富良野市が保有する市有林を活用したJクレジットの創出
- (2) ドコモが開発を進めているスマート林業機械の検証実施
- (3) 富良野市内の児童に対する環境教育（環境保全活動）の実施

各連携・協力事項については、(1)から(3)の個別案件ごとに覚書を締結して、進めていく予定です。

(1) に関しましては、本合意書とあわせて覚書を同日に締結いたしました。

(1) に関する覚書では、富良野市が保有する市有林の一部であるドコモ富良野の森をJクレジットのプロジェクト登録を行うべく、作業を進めてまいります。ドコモが富良野市のプロジェクト登録を支援する事により、国が掲げる2050年のゼロカーボン実現に向けた官民連携のスキーム作りを検証してまいります。

(2) と (3) に関しましては、本合意書の締結後、林業および教育関係者と場所や日程などを調整しながら、覚書の締結を進めてまいります。

【(1) 覚書の概要】

1. 覚書の名称

「Jクレジット創出に関する覚書」

2. ネーミングライツ

ドコモ富良野の森

3. 所在地

富良野市字西達布たちばな
富良野市字西達布つつじ
富良野市字西達布おもと
富良野市字東山共栄
富良野市字老節布
富良野市字平沢



西達布たちばなの市有林

4. 面積

160.42 ヘクタール (1,604,200 m²)
※うち人工林 127.36 ヘクタール (1,273,600 m²)

5. 実施期間

2024年7月25日（木）～2032年3月31日（水）

富良野市とドコモは、本合意書を通じて、「2050年ゼロカーボンシティの実現」「ドコモグループ2040年ネットゼロ」に向けて、取り組みを推進してまいります。

※1 「2050年ゼロカーボンシティの実現」の詳細に関しては、こちらを参照ください。

<https://www.city.furano.hokkaido.jp/life/docs/9726.html>

※2 「ドコモグループ 2040年ネットゼロ」の詳細に関しては、こちらを参照ください。

https://www.docomo.ne.jp/corporate/csr/ecology/environ_management/netzero/

本件における報道機関からのお問い合わせ先	
北海道富良野市 市民生活部 環境課 kankyou-ka@city.furano.hokkaido.jp	株式会社 NTT ドコモ 経営企画部 サステナビリティ推進室 社会貢献推進担当 susbio@ml.nttdocomo.com

ドコモの森の活動内容について

ドコモは、1999年から自然環境保護活動の一環としてドコモの森づくりを推進し、各地域で、ドコモグループ社員が、現地の森林管理署・管理団体のご協力のもと森林整備活動を継続的に実施してきました。

2023年からは、世の中における生物多様性保全に対する着目度の高まりや、30by30をはじめとする枠組みの拡大などを踏まえ、これまでの森林保護活動から、生物多様性保全の枠組みへ拡大しました。

各地域ならではの生態系保全活動を継続的に行うことで、生物多様性の保全・回復活動に寄与していきます。

活動コンセプト	内容	事例
守る森	環境省希少性の高い生物が存在する森や、地域固有の特徴的な環境を有する森などを、地域の皆さまと社員とで守る活動を実施しています。 今後は、ICTなども活用し、ドコモグループならではの保全活動を推進していきます。	 <p>【ドコモ泉南堀河の森】 環境省「自然共生サイト」認定 (令和5年後期)</p>
学ぶ森	地域の子どもたちへドコモサステナスクール「SDG s フィールドワーク」の一環として、ドコモが連携する森で環境授業を実施しています。 地域やフィールドごとの特色を生かした学びを提供し、子どもたちがそれぞれ環境への向き合い方を考えるきっかけ作りをしています。 ◆ サステナスクール	 <p>【ドコモ八王子上川の里の森】 生物調査/林業体験</p>  <p>【ドコモ君津の森】 地元小学校による植林体験</p>
遊ぶ森	お客さまが楽しみながら環境や生物多様性保全に触れ、保全活動に参画できる施策を提供します。 ドコモの森に生息する希少生物の保全に必要な活動をweb3のスマホゲームで再現し、ゲーム利用者はゲームで遊ぶことで保全活動を知り、参画するきっかけ作りをしています。 ◆ もりまもり	 <p>web3 ゲーム</p>

ドコモの「生物多様性」の取り組み



◆ドコモの生物多様性保全に向けた取り組み

【ドコモの生物多様性保全に関する取り組み例：自然共生サイトとして守る森ってどんな森？】

大阪府泉南市にあるドコモ泉南堀河の森では、2024年3月には、これまでのドコモの取り組み泉南堀河の森の豊かな生態系の価値を認められ、環境省の自然共生サイト[※]に登録されました。

ドコモ泉南堀河の森は、自然豊かな環境（アカマツ林、水辺、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林）があり、4つの生態系がモザイク状に重なり合っている里地里山です。

ドコモでは、里地里山として小川周辺の整備や山頂に向けた歩道整備など、人が自然と触れ合える環境を作ってきました。また、4つのエリアにどのような生物が息するか社員や専門家の力を借りて環境DNA調査を行い、この土地ならではの生き物がすみやすい環境整備に取り組んでいます。今後のモニタリングにはドコモのICTも活用する予定です。



[※]自然共生サイトとは、「民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する仕組みのことです。この取り組みは、近年、環境破壊が進み、地球上の多くの生物が減少・絶滅に追い込まれている危機的状況に対して、COP15で採択された30by30（2030年までに世界全体の陸地と海のそれぞれ30%以上を保全地域にするという世界目標）の目標達成を通じた生物多様性保全のための取り組みのひとつです。